

運営会議 (旧 まちの課題整理プロジェクトチーム) における
課題整理状況
(第33回 全体会 資料)

2019/11/5

分冊⑨

【分冊①～⑧に含まないカテゴリの課題】

※課題No. 下の () 内は課題提出年度

No. ねんど (年度)	じれい もんだいていき こま 事例、問題提起、困りごと	かだい 課題
れい 例	だれ なに こま 誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	かだい 〇〇という課題がある 〇〇が必要
100 (H29)	しかくしょう かの くやくしょ そうふ じよるい さーびす こうしん 視覚障がいの方に区役所から送付される書類(サービス更新 のお知らせ等)について、点字印刷されたものが送付されてお り点字を習得されている方の大きな助けになっているが、視覚 障がいの方の中には、中途障がいの方も多く、点字習得されて いない方も多い。実際に中途視覚障がい者から「点字で書類を 送られてきてもわからない」との相談を立て続けに2件ほど受 けた。【相談】	かだい 【課題】 しかくしょう しゃ たい きつぽろし つうち 視覚障がい者に対する札幌市からの通知について。 ちゅうとし しかくしょう しゃ たいおう 中途視覚障がい者への対応。 かなが かだいかいけつさく 【考えられる課題解決策】 しかくしょう てんじ さーびすしんせいじ てちようしゆと 〇視覚障がい=点字とせず、サービス申請時や手帳取 得時に点字の習得について行政で確認、習得していな い方へは電話やその他音声での情報提供をする。 かた でんわ ほかおんせい じようほうていきよう 〇SPコードがついていても、読み上げ機械を所持して いない人がいるので、情報提供をしていく(例:認定 ちようさじ ごうりてきはいりよ かんてん ひつよう 調査時など)⇒合理的配慮の観点から必要では？ じようき ばあいやくしょ しょくいんじしん きかい じようほう 〇ただし、上記の場合役所の職員自身が機械の情報を よくわかっていないので、勉強会を開くなど必要。 しんらい だいさんしゃ へる ぱー つた など てん 〇信頼する第三者(ヘルパー?)が伝えていく等の転 そうしす てむ かなが 送システムを考える。

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 ○区役所の取扱い状況を確認 ・清田区では、点字送付希望者を名簿管理している。新たに希望する方がいれば登録をしていく。書類もすべてが点字になっているわけではなく、案内封筒に点字シールをはっているだけで、中身は普通の文書になっている。区役所では、すべて点字の文書を作ることまでは、時間的にも人員のにも困難な状況がある。提出期限が近づいたら電話をして随時確認。知的障がいの方にも電話連絡をして対応。 ・点字希望の名簿を別に作っていない区でも、個人台帳に点字希望などと記載をして管理している。書類を送る時には、同じく点字シールを封筒にはって送っている。一般的に点字希望をしていない方に、点字シールをはって送るといことはしていない。 ※区役所の部署ごとに個別的な対応はできているが、引き継ぎがされていないという場合もまれに見られるため、担当者が変わってもわかるように引き継ぎをし、担当者も確認するようにすることが必要。</p>	<p>平成30年7月31日の運営会議にて新たに「情報保障」という課題カテゴリが設置された。</p>	<p>主：行政の仕組み 副：情報保障</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
67 (H26)	<p>・行動援護の在り方について 危険認知力が低く、突然の飛出しや他害がある方が行動援護の対象者だと認識しているが、児童に対応できる事業所が少ないと感じる。また、事業所によってスキルに差があると感じる。</p> <p>・障害児の地域生活について 地域に居住していても特別支援学級だと少し離れた小学校に通わなければならない場合がある。自宅の近くの公園で、小学校は離れてしまったが幼馴染と遊び、障害があっても地域のコミュニティで楽しく生活する。地域生活の支援を何よりも重視していきたいけれど、トラブルに発展してしまうことも多々ある。(東区)</p>	<p>・行動援護を提供する事業所の意識改革 ・行動援護ヘルパーの技術の向上 ・地域の障害児(者)への理解・啓発を促す運動 ・本人を中心に据えた地域ネットワーク作り(個別支援から地域支援へ)</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 札幌市と協議会が共同でヘルパーの育成に関する研修を行う。 そのために、札幌市でヘルパーの研修会を行うには、まずは現段階でヘル パーの研修がどのようになっているのかを知る必要がある。まずはヘル パーにアンケートを取り、(1) 実際に研修が必要だと思うか、(2) 研修が必要であるとすればどのような研修が良いか、(3) 研修に参加す るとすると時間帯は、(4) どのような環境であれば研修に参加しやすい のかを分析し、アンケート集約結果を参考にして研修を行う。研修を行っ た後もアンケートを取り、どこかにまとめ役になってもらってそのまとめ 役(事業所等)が研修を定期的開催する、情報交換会を行う等の機会を つくっていただく。それができた時点で協議会の担当者はバトンタッチして 協議会としての役割を終える。</p> <p>⇒「ヘルパー技術向上のための研修会の可能性について」として、課題整 理を行った(25年度実施、26年度から東区地域部会にて引き続き検討を依 頼)</p> <p>⇒東区内の取り組みは東区地域部会で引き続き実施予定。市域の取り組み については関係団体等に依頼中。</p>	<p>・第28回札幌市自立支援協議 会全体会にて、ヘルパーの技 術向上に関するプロジェクト チームを承認。課題検討中。</p> <p><u>ヘルパーの技術向上に関する プロジェクトチームでは、 平成30年度にヘルパーを対象 にした座談会を開催。日々の ヘルパーの想いや困りごとの 共有等ができる仕組みを地域 で作っていけないか現在検討 中。また、課題としては、技 術向上もありつつも人材不 足・事業所不足の課題がさら に深刻化してきている。(令和 元年7月11日ヘルパーの技術向 上に関するプロジェクトチ ーム会議)</u></p>	<p>主(前 半) : 支援 技法・障害 特性</p> <p>主(後 半) : 個別 的</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
れい 例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
37 (H25)	<p>〇情報の保障</p> <p>地域の物件や不動産会社に関する情報に、障がい者やその家族が簡単にアクセスできる仕組みが必要である。たとえば、物件に関しては、住宅改修が可能かどうか、周辺環境や最寄駅のバリアフリーの状況、また、協力的な不動産会社がどこにあるか、その不動産会社へは車いすで入店できるのか、その会社の誰に相談すればいいのか、物件探しの際に車いすのまま乗車できる車両を持っている不動産会社はどこか等の情報に、障がい者や家族が簡単にアクセスできる仕組みが必要である。</p> <p>特に、IT環境を持たない障がい者や、ITそのものを利用できない障がい者も多くおり、「人」を介した分かりやすい情報提供の仕組みが重要である。(東区20)</p>	<p>障がい者が必要とする情報に簡単にアクセスできる仕組みを検討する。</p>
38 (H25)	<p>〇不動産会社との連携</p> <p>地域生活支援に関わる事業者と不動産会社との連携が必要である。物件見学会や、交流会・意見交換会、研修会等を通して、日常的に連携体制を作っていく作業が必要である。地域生活支援の事業者たちと不動産会社がもっと有機的に連携できれば、障がい者の「住まい探し」や「自立生活」の可能性は大きく広がるはずである。(東区21)</p>	<p>障がい者を支援する事業所と不動産会社とが連携する仕組みを検討する</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 障がい者の住まいの課題のため、6と一緒に検討する。 ①東区地域部会でビッグの方を招いて「障がい者の住まい」についての研 修会を行う予定であるので、他の地区とも合同で出来ないか検討する。 ②精神障がい者のみではなく、障がいのある方の入居に関しては、福祉側 からの働きかけも必要だと考えられるので、不動産・借家が安心できるよ うなパンフレットを作成する ③方法として、運営委員が各地区1-2名ほど住宅問題に関して興味のある 人に集まってもらうよう呼びかけをして、そこでチームを作り(1)研 修、(2)広報等の活動を行ってもらう ④まずは運営会議に相談する ⇒「市営住宅の単身入居を含む住まいの問題」として課題整理を行った (25年度実施、26年度から中央区地域部会にて引き続き検討を依頼)</p>	<p>平成30年7月31日の運営会議 にて新たに「情報保障」とい う課題カテゴリが設置され た。</p>	<p>主：住まい 副：個別 的・情報保 障</p>
<p>【課題整理済】 37の見解と同じ</p>	<p>平成30年度 中央区・豊平 区・厚別区で大家さん、不動 産仲介業者、管理会社との意 見交換会を実施。 令和元年度も前年度開催さ れていない区で大家さん、不 動産仲介業者、管理会社との 意見交換会実施を検討中。</p>	<p>主：住まい 副：個別的</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
39 (H25)	<p>〇大家・管理会社の不安 大家、管理会社の不安の問題をどうするのか。障がい者と日常的に接する機会が少ないため、障がい者がどんな生活をしているのかわからないという不安が生じやすい。大家が障がい者の暮らしについてイメージできることが、大家自身の不安を取り除くことにもつながる。たとえば、「暮らしの履歴書」を提示するという方法も、大家に障がい者の暮らしを具体的にイメージしてもらうためには有効な方法である。大家が「障がい者の暮らし」を具体的にイメージできるような手立てを工夫してゆく必要がある。(東区22)</p>	<p>大家・管理会社が障がい者に対して抱く不安を解消する仕組みを検討する。</p>
87 (H28)	<p>36歳女性、ALSで気切、人工呼吸器装着、胃ろう造設。夫と3歳の息子の3大家族。実家は道外で家族の支援は受けられない。 8か月前に初診だが、進行が非常に早くて既に寝たきりで動けない状況。顔の筋肉が若干動くことから、しゃべると空気が漏れる音で多少話をしている内容が聞き取れる状態。 本人としては、まだ会話ができる内に自宅に戻って息子さん、ご主人と関わりながら在宅生活を送りたい希望だが、医療的ケアが非常に多い状況で、喀痰事業者一覧事業所から手当たり次第事業所に連絡しても、新規でサービス提供できる事業所がほとんどない現状。サービス提供が整わないと自宅に戻ることは難しいことから現在も入院継続しながらサービス調整を試みている状況。【相談】</p>	<p>【課題】 ALS患者のヘルパー手配について</p> <p>【考えられる解決策】 医療的ケアが必要な人への重度訪問介護は通常重度訪問介護よりも事業所が見つからない。 特定医療行為の研修費用も高く、タイミング的にもいつでも研修を受けられる状況ではない。また、研修を実施できる指定事業所毎に研修開催時期も発表しているため、札幌市内でいつ、どこで開催されるのかの一覧がない。 特定医療行為の研修費用の助成制度や研修の計画的な実施(毎月どこかで研修が受けられるような仕組み、もしくは、希望者が5名集まったら研修受講ができるなど)。 PA制度による医療的ケアの整理。</p> <p>※ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームへの追加課題</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 37 の見解と同じ</p>	<p>平成30年度 中央区・豊平 区・厚別区で大家さん、不動 産仲介業者、管理会社との意 見交換会を実施。</p> <p><u>令和元年度も前年度開催さ れていない区で大家さん、不 動産仲介業者、管理会社との 意見交換会実施を検討中。</u></p>	<p>主：住まい 副：個別的</p>
<p>【課題整理済】 次に同様のケースがあった場合に、体制をどう作るか。 ヘルパーの技術向上ではあるが、医療的ケアの研修を受ける必要があ る。 研修事業者の指定は道。 自事業所のためだけの研修実施はできないことになっているが、自事業 所の受講者がいないと中止になることもある。 重複障がいプロジェクトの取組とも重なる。 医療的なこともあるので、訪問看護などとも関わっていった方が良い。 ALSの方にサービス提供する事業所は一部。 ヘルパーPTでも研修のひとつにALSについて入れることはできるかもし れない。 重度訪問介護は単価が安いというイメージなので、医療ケアが無くても 事業所が無い。 ALSは難病なので毎日訪問看護入ること可能。 ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームで検討</p>	<p>平成30年度より札幌市にて 「重度障がい者に必要な在宅 介護のあり方検討会」が設 置。検討会では、重度障がい 者を支える人材育成について も論点のひとつとなってい る。</p> <p>平成30年度、重複障がいに 関するPJでも、市内の居宅介 護事業所や訪問看護事業所に 対してアンケート調査を実 施。</p>	<p>主：医療 副：支援技 法・障害特 性</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
88 (H28)	<p>45歳 女性 ALS (気管切開、胃瘻、人口呼吸器あり) 夫 (潰瘍性大腸炎を患いながら福祉施設に勤務)、娘2人 (中学生と小学生) と同居</p> <p>【在宅生活中、利用していたサービスなど】</p> <p>重度訪問介護720時間 (ヘルパー-事業A、Bの2ヶ所) ※720時間の大部分をAが担っていた。</p> <p>訪問リハビリ 訪問診療</p> <p>事業所Aのヘルパー退職が相次いだことで、720時間の調整が困難となり、6月上旬から市内の病院へレスパイト入院。Aを通じて6月中旬にヘルパー調整の相談依頼を受ける。入院後Aの紹介で、事業所Cが加わり入院中P Aとして病院へ派遣開始。本人、家族の希望は『720時間のヘルパー調整を行い在宅復帰』。病院も入院当初は『720時間の調整がつくまで』という条件で受け入れていた。道HPから『喀痰吸引等に関する登録特定行為事業者一覧 (重度訪問介護)』すべての事業所にあたったが、対応頂けるといふ返答を貰った事業所2ヶ所のみ。9月8日時点で、未調整の時間が約350時間。720時間の調整は困難となる。病院も調整つく目途ないのであれば施設へ退院を推すようになる。生活介護、短期入所等の併用も含め、在宅復帰検討となるが、受入可能な通所、短期入所もほぼ皆無な状況。社会資源不足が原因で在宅復帰が非常に困難となっているケース【相談】</p>	<p>【課題】</p> <p>重度訪問介護720時間の支給決定を受けている方の退院に向けたサービス調整</p> <p>【考えられる解決策】</p> <p>解決策が見当たりませんが考えられるとしたら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源 (医療ケアがあっても受入れてくれる事業所) の拡充促進 通所も、ショートも、ヘルパーも・・・ ・喀痰吸引等の研修頻度の増回 (現在年2回くらい?) ・医療的ケア対応事業所の加算の充実 <p>※ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームへの追加課題</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理 プロジェクトチーム)の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】87の見解と同じ PAのサクシオンは、同意書で可能。胃ろうはできない。</p>	<p>【参考】 ・平成30年度報酬改訂によ り、医療的ケア児者に対する 支援の充実がある(重度訪問 介護についての規程は無 い)。 ⇒札幌市医療的ケア児支援検 討会が平成30年6月に設置され た。 ・ヘルパーの技術向上に関す るPJでも課題として検討。 【重複障がいに関するPJにつ いて】 ・2019年9月に一旦終了の予 定。課題の継続的な検討は必 要なため、その後の課題検討 の場について現在整理中。</p>	<p>主：医療 副：支援技 法・障害特 性</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
30 (H25)	<p>〇知的障がい者には、情報の説明がわからない。避難場所が家から遠くなっているようであるが（近くにも避難場所があるのに）その理由もわからない。 〇救助体制はどのような仕組みなのか知りたい。 〇障がいのある方への情報提供の仕方などを再度見直して欲しい（ルビ振り）その他、一般市民に向けた周知も含む。 〇現在、これらの事に関してまちづくりサポーターと協議しているとの事だが、進捗状況と今後の方向性も含めて回答を頂き、各関係者（手稲区地域部会）にも伝えていきたい。（手稲区1）</p>	<p>● 震災時の避難（ハザードマップ含む）などについての情報が少ない ● 障がい者（子供、高齢者）が本当に避難できる場所なのか？見直してほしい</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 ・情報不足、避難所の整備等は引き続き情報収集する ・まちづくりサポーターにより平成25年度の活動報告及び進捗状況につ ては現在取りまとめ中。 ・平成26年9月11日の大雨の状況について、危機管理対策室が平成27年3月 に報告書を作成。 http://www.city.sapporo.jp/kikikanri/torikumi/chibou_minaoshi_jishinhen/bousaikaigi26/index.html</p>	<p>・福祉避難所は非公開。開設 されるかどうか、その時の 状況によるため。 ・一般の避難所から福祉避難 所に誘導する仕組。 ・平成30年7月31日の運営会議 にて新たに「情報保障」とい う課題カテゴリが設置され た。 ・平成30年9月に発生した「北 海道胆振東部地震」後には、 各地域部会で災害に関する検 討が行われた。自立支援協議 会全体としても災害に対する 取組みと今後の課題に向けて の検討を行うことを運営会議 で決定。第32回全体会で、災 害発生時の状況と対応、今後 の課題について共有すること にした。 →令和元年5月第32回全体会に て「防災に関するまとめ」を 共有 http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/kyougikai/documents/99_nenkankatudouhoukoku/okusyo_bousai.pdf</p>	<p>主：災害 副：情報保 障</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
90 (H28)	<p>54歳・男性・知的障害(療育手帳B-) 家庭の事情から家族との同居を解消。本人は単身生活を希望し地域のアパートへ入居。 日中は就労継続支援A型にて就労。障害基礎年金2級受給中。 これまで、同居家族が金銭管理を行っていたが、今後支援が得られないため社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の利用を検討中。 生活保護受給者は利用無料であるが、本人のような非課税世帯の方は利用料が1時間1,200円かかる。 数年前に胃潰瘍で2回入院した際、有給休暇も使い果たし、給料が0円になった経験が、本人の中に強く残っており「金銭管理は頼みたいけど、また倒れたら利用料が払えるかな」と心配しており、利用料が高いハードルとなっている状況。 就労継続支援A型での給料は時給制であり、本人の労働時間がダイレクトに反映される分、生活保護受給者よりも経済的に不安定であると感じた。【相談】</p>	<p>【課題】 日常生活自立支援事業の利用料金について 【考えられる解決策】 日常生活自立支援事業の利用料金について、非課税世帯の無料化 【同様の事例】 例えば過去には、本人が社協に出向けば300円位でやってくれてたこともあり、一律でなく、もっと柔軟になれば。 ・日自の原則は訪問になっている。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理中】 ・日自利用件数などのデータを共有したい～札幌市は利用者が少ない？ →他都市に、社協以外の金銭管理制度は無いかな？ 消費者センターを活用した仕組みできないかな？</p> <p>社労士・行政書士等が金銭管理の仕組みを作っている所もあって、でも割に合わない。グループホームで金銭管理している所もあるが、グループホームが職能団体に依頼して契約することができた方が良いのではないかな。</p> <p>A福祉会で金銭管理のシステムを持っている。法人管理口座と、本人管理口座を作っている。財産管理契約を本人と結んでいて、H銀行との提携をしている。退所後も希望者には行っている。法人単体でなく、札幌市としてのシステムにする参考できないかな？</p> <p>1時間1200円の利用料がかかる。実施主体の社協が利用料を決められることになっているが、全国的に統一されている様子。したがって、個別に利用料設定は可能かもしれない。</p> <p>金銭管理について、日時と成年後見しか制度が無い。</p> <p>知的障がい、精神障がい、認知症の方が対象。単なる浪費癖は、対象にならず、契約能力がある人で、権利擁護審査会で利用決定。利用を認めてもらうことが難しい場合もあり、本人が支援の必要性を自覚できていないと、使えない。金銭管理はオプション。</p> <p>成年後見利用支援事業についても活用を。</p>	<p>平成30年度専門部会連絡会で課題整理。就労支援随新部会で継続審議することとなる。</p>	<p>主：日自・後見</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
69 (H26)	<p>札幌市内、近郊で受け入れてもらえる入所施設が見つけれない。(相談)</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>入所できる施設が見つけれない</p> <p>入所施設を効果的に活用するための利用者の循環システムが必要では？地域に出られる人は出し、地域では難しい人を一定期間施設で見ていくという流れが作れたら助かるが・・・。</p>
86 (H28)	<p>53歳：男性：前頭側頭葉型認知症（発症49歳時）病名の告知を受けている。就労継続支援B型利用。妻（大腸がんの既往）と長男（小学2年）の3人暮らし。</p> <p>【本人の要望】働きたい（一般企業）。子供が小さく働くのを諦めるわけにはいかない。</p> <p>【妻の要望】働くのは諦めてくれたらいいが…病気の進行が早く言葉が分からなくなり会話が困難になっている。適切なリハビリを受け少しでも病気の進行を遅らせた。</p> <p>【本人の状況】場所と時間にこだわりがあり自力通所出来る。しかし、マナーの悪い人などに「死ね！」と言いつラブルの可能性が。作業中の人との接触やストレスなどで床や机・自分の顔を殴る。徐々にADLも障害されてきている。</p> <p>【社会資源について】①短期入所などのレスパイトサービス：介護保険施設は同年代がない・障害福祉サービス受け入れ経験がない状況。②認知症の方へのリハビリ：医療保険では認知症のリハビリは無く、介護保険サービスでは同年代の方がいない事や、年齢に応じた仕事等への関わりや、リハビリの対応できる事業所が無い。③就労継続支援で認知症の方の受け入れ経験が少ない事と対応の困難さがある。④家族介護が困難になった時のサービスが無い。（介護保険サービスでは年齢の差が大きくご本人に違和感があるように思われる）④病状告知されてから4年間 病院以外の関係機関につながっていなかった。【相談】</p>	<p>【課題】 若年性認知症の方への社会資源がない</p> <p>【考えられる解決策】 ①～③若年性認知症の方々の生活の困難さや必要なサービスについての調査・研究→必要なサービスの整備 ④病名告知の段階など早期に支援が受けられるような仕組み作り。</p> <p>【同様のケース】 ・急に発症すると、障害領域の資源になじまない ・記憶の保持が難しいと、受入側のノウハウがない</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 触法ケースは、障がいだけの問題ではない。司法は、障害福祉に依頼してくる。入所施設だと、受入は定員がいっぱい。触法ケースについては、発達障がい者支援手法開発会議にお願いしてもよいのではないか。 入所施設からグループホームに移行しても、高齢になって施設に戻ることがあるので、介護保険に繋がることも必要。地域での受け皿が無いから、入所施設が必要になる。入所施設からの地域移行について、今後の取組をどのようにするか。次年度はアセスメントから実施したい。 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置。</p>	<p>身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームにて課題検討。</p>	<p>主：社会資源 掲載：地域移行</p>
<p>【課題整理済】 働く場の不足、知識の不足もあり、受け入れ態勢ができていない。進行も早いので、どのタイミングでサービスかの判断も難しい。病院には同様の方が多くいるが、病院がサービス利用対象者であることを知らないかもしれない。 就労支援推進部会に検討を依頼。</p>	<p>就労支援推進部会で継続審議中。</p>	<p>主：社会資源</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
89 (H28)	<p>夫と二人世帯の60歳女性、身体障害（遠位型ミオパチー）1種1級、支援区分6。 本人は、徐々に身体機能が衰えてきており、電動車いすを使用し自宅で生活している。本人は手が少し使えるのと、うまく立たせてもらうことができれば、少しの間立位を保ち、手すりにつかまって数歩移動することもできる。ただし、介助の仕方が身体状況の特性上難しい。 夫が就労しているため、月～金は生活介護と重度訪問介護を利用し、重度訪問介護では、自宅内でトイレへの移動や家事等を支援してもらっている。土日は夫が休みだが、夫も夫自身の用事があり、外出しなければいけないこともある。 この度、本人の利用するヘルパー事業所一社が、人員不足により本人の支援から撤退することになり、相談支援事業所が事業所紹介で関わってきた。本人からの利用希望に合わせてヘルパーを導入していきたいが、問い合わせる先々で人員不足で対応が難しいと断られた。そのため、夫が用事をこなせないことや、本人がトイレを我慢するしかない状況がでてきてしまった。現時点ではなんとかやってきているが、重度訪問介護が利用できる事業所が少なく、この先さらに介護が必要になった場合にどうしたらよいか困っている。【相談】</p>	<p>【課題】 重度訪問介護の事業所が少ないことについて</p> <p>【考えられる解決策】 ①重度訪問介護を利用する方々のニーズの個別性に沿って支援ができるように、重度訪問介護を請け負う事業所が増加すると良いと思っている。そのためには、請け負う事業所側にもメリットがあるように報酬改定等も検討が必要と思われる。また、事業所によっては、ヘルパーがPA制度で稼働することを認めていない事業所もあるため、障害福祉サービスとは違う形で請け負えるような方法はないかと思う。また、ヘルパーの技術向上の取り組みがあってもよいのではないか。 ②このケース以外の重度訪問介護利用者で、支給量(時間)の半分以下しか使用していない利用者もいる。PA制度を時間拡大のためだけではなく、報酬増大(特に休日・夜間対策)のために活用できる仕組みがほしい。</p> <p>※ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームへの追加課題</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 ヘルパーステーション側が、時間を細切れに色々なところへ行くので難しい。 特定の方に関わることで、本人のことも分かるし、事業所もペイする。指導する人が増えないので、色々な事業所に派遣してもらう仕組みが作れたら良い。 今まで付き合いのある事業所同士で調整していたが、できなくなってきた、相談に繋がってきている。相談員に力が無いとか、相談室の責任にされてしまうが、そうでは無い。 難病の場合、介護保険のケアマネも絡んでくるので、どちらがということもある。 難病でも、若年性認知症でも、ヘルパー技術もあるが、事業所の教育も必要。そういう違うところでも考えていかなければならない。 事業所として受けたくても、事業所の職員が受けられないということもある。学校とか、きちんと教育していただけることも考えていかなければいけない。 研修として、研修ができる方はどういう方か？ 市としては、報酬単価の話しかできないので、報酬と実践の組み合わせの説明の方が分かりやすいと思う。 研修も必要と思う。就労支援推進部会で管理者研修も考えている。そういうところで伝えることも。 就労支援事業所の利用率を調べたら七割くらい。足りないのではなく、余っている。数が少ないから研修とか、助成をしていかなないと。 障がい者プランに、必要な数を載せていかなないと取り組みづらいのでは？ヘルパーがどれだけ足りないから、とどれだけ増やすのかの数字を載せない。現状の数は出ているが、目標数値が出ていないので、協議会が目標数値を作るように。 中長期的には、ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームから分かたれて会議体を持つことも必要か？</p>	<p>ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームの検討課題として追加。検討中。</p> <p>・ヘルパープロジェクトとしても、管理者研修の必要性を強く感じている。専門部会連絡会と協働で検討し、研修についての議論を進める(令和元年6月24日運営会議)</p>	<p>主：社会資源 副：制度(国域) 副：支援技法・障がい特性</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
れい 例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
25 (H25)	<p>重度身体障がいの方の就職についての事例。 就職先の目処は立っているが、職場内介助者の確保が難しく、具体的に就職が進まない状況。本人は制度外のヘルパーを利用してでも就職したい意向が強い。しかしながら、給料のほとんどがヘルパー費用に充てられることになるため、就職する意味がなくなってしまう。職場内での主な介助は排泄介助。 雇用促進協会の職場内介助者の助成金の活用やボランティアも検討しているが、助成金は金額が不十分であったり、ボランティアも安定して長期で入れることは不安定である。(相談7)</p>	<p>・職場内介助が必要な場合の介助者の手立てが不十分。</p>
77 (H27)	<p>・電動車イスで夏場は一人で移動可能だが、冬場の移動については支援を要する。しかし、通所や仕事に行くことを考えると移動支援は利用できない。 【現状の対処】 ・まだ通所していないため直面していないが、移動手段がないため、「雪がある間はあきらめる」というのが今のところの結論。 ・対応する事業所をさがしている。 【意見】 ・移動と就労の2つの課題がある。 ・ぬくもりサポート事業や身障協会のボランティア活用 ・元気スキルアップセミナーや生活就労支援センターすてっぷの活用。 ・ぬくもりサポート事業の利用料金やボランティアの交通費負担が懸念される。就労先によっては交通費として支給されるかもしれないが、あまり期待はできないのでは。(清田区)</p>	<p>【課題】 移動に制約のある方の就労支援。 【取組提案】 移動支援の通勤時の利用への拡大</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 ・助成金の申請は可能。書類の作成が面倒。 ・就労支援推進部会事業提案チームで今後も検討。</p>	<p>就労支援推進部会で継続審議中。</p>	<p>主：労働</p>
<p>【課題整理済】 ・移動支援だと移送で費用がかかる 通勤に関しては福祉が担うべきかの疑問も 福祉サービスが拡大すると、インフォーマルのサービスが無くなってきている 高齢障害者雇用促進機構の助成金も見直し必要では 就労支援事業所でも介助や医療的ケアの必要なケースは受けられる職員数の限界やトイレの数等の限界がある 介助については、される側とする側の関係性になってしまう ・就労部会への情報提供</p>	<p>【参考】 ・平成30年度制度改正により、就労移行支援については、通勤のための訓練を実施と、基準省令に明記された。 【就労支援推進部会】 平成30年度までは部会での継続審議課題ではあるが、新たに移動に関するプロジェクトチームが設置された際には、プロジェクトに課題を移行し検討する事を提案。 【移動に関するプロジェクトチーム】 平成30年4月よりプロジェクトチーム設置。障がい種別における移動に関する課題について調査・分析を行っている。</p>	<p>主：労働 副：移動</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
<p>例</p>	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
<p>70 (H27)</p>	<p>札幌市の障害者日常生活用具で、特殊マットの基準額は19,600円となっている。 褥瘡(床ずれ)がある方または予防に必要な方はエアマット等を使うことが多いが、エアマットの価格は20万円以上する物もあり、かなりの自己負担になってしまう。褥瘡があり医者からエアマットの使用を勧められ、特殊マットの申請を行ったところ、基準額が19,600円で基準額を超える物を買おうとしたら自己負担になりますと言われた。褥瘡があり、また痩せていて一般のマットだと痛くて眠れないので、自動で時間を設定し圧の切り替えをするエアマットを購入したところ、10万円以上の自己負担になってしまった。経済的にも余裕がある訳ではないのでかなりの負担となった。(東区)</p>	<p>特殊マットが必要で、特に褥瘡のある方または予防が必要な方の自己負担を多額にしないよう、基準額を現状にあったものに、きめ細かく設定するなど改めてほしい。 また、日常生活用具全般について、現状に合った基準額に見直しをしてほしい。</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 (カテゴリ変更による)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のまちの状況は？ → 恵庭、北広島、江別 共に19600円 (札幌市と同額) 日常生活用具は、障害種別がバラバラだったり、構造が分かってないならない → まず、まちプロに、日常生活用具の仕組みについて教えてほしい 日常生活用具について検討する場がある？～無い。ただ要求じゃなくて、アイデアを交換する場も必要では？～まちプロと係長の懇談は？ → 担当の在宅福祉係との意見交換や提案の場の設定は可能 → 相談支援部会が予定している意見交換と合わせて検討 (事前に提案を含めた材料を各担当係に渡してから開催が良いかも) まちプロは怖いものじゃないことを市に知ってもらうことを、課の肝の、給付管理係と在宅福祉係には知ってほしい。 	<p>【平成31年3月20日運営会議】</p> <p>「制度的な課題なので、協議会で取り上げない」ということもできない。専門部会連絡会でそのあたりを整理していくことを確認。</p>	<p>主：制度 (市域)</p> <p>副：行政の仕組み</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
<p>れい 例</p>	<p>だれ なに こま 誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
<p>78 (H27)</p>	<p>じどう ほうかごとうでいさーび すしきゆうにつすう 児童の放課後等デイサービス支給日数について</p> <p>【困りごと】 せいにかつぜんばん じょうじえんじょ ひつよう じどう あいきゆー みまん しきゆうきじゆん さい 生活全般に常時援助が必要な児童（IQ20未満）への支給基準を再 こうしてもらいたい。札幌市の支給要件を明確にしてほしい。 げんじょう はんでいけつか しきゆうにつすう にち はじ でいさー 現状では、判定結果にかかわらず支給日数14日から始まりデイ サービス等の意見書により23日の支給日数となっていると思われるま す。 じゆうど はったつしょうがい も じどう しきゆうにつすう ひつよう じき ひつよう りよう 重度の発達障害を持つ児童への支給日数を必要な時期に必要な量 を提供いただける基準を再考していただきたい。また、質の高い療 育を受けさせていただきたい。 いちりつさいだい にち さいだい にち じちたい ・一律最大23日となっているが、最大30日となっている自治体もあ り、必要な日数に応じて上限を設けず支給している自治体もある。 さっぽろし じ てきせつ しきゆうにつすう けつてい かんが 札幌市も児にあった適切な支給日数を決定できるよう考えてほし い。 げんじょう たいしよ 【現状の対処】 じどうでいさーび すじょうげんがくかんりじぎょうしよ いらい かくじぎょうしよ けいやくにっ ・児童デイサービス上限額管理事業所に依頼し、各事業所の契約日 数を月毎に調整し、支給日数を最大限に利用できるようにしてい る。 いどうしえん りよう がいしゆつ かぞく ・移動支援を利用しての外出をさせていただいているが、家族への レスパイトにしかなくなっておらず、今の本人に必要な支援は質の高い けいぞく りよういく おも 継続した療育と思われる。 いけん 【意見】 ひつようせい うす りようしゃ ・必要性が薄い利用者もいる。 ちようききゆうぎょうちゆう がっこう れんけい かだい ・長期休業中や学校との連携に課題がある じ てきせつ しきゆうりよう けつてい はんたん むずか ・児にあった適切な支給量を決定することは、判断が難しいものの じゆうよう 重要なことである。 しえん ひつよう じき しゆうちゆう りよういく おこな ご じんせい ・支援が必要な時期に集中した療育を行うことで、その後の人生が かわってくるため、23日より支給が必要な児もいると考えられ る。 せいじん ばあい しゆうろうけいぞくしえん さーびす にち みと けーす ・成人の場合、就労継続支援のサービスは27日が認められるケー スもある。（清田区）</p>	<p>【課題】 しょうがいじ てきせつ しきゆうにつすう けつてい 障害児にあった適切な支給日数の決定について</p> <p>とりくみていあん 【取組提案】 じゆうど しょうがいじ せいかつじょうきょう けねん じ かん 重度の障害児や生活状況に懸念のある児に関して、 27日への支給量を認める</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 見者関係なく、拡大だけじゃなく必要な量を。14日から23日に増やすのは事業所の意見書で、利害関係のある所からの意見。 計画案より、事業所の意見書に重きが置かれていることについて、改善の必要あり</p>	<p>【平成30年度専門部会連絡会における課題整理】 札幌市とその都度話し合いを 行っていく。個別対応で支給量を決定しているが、放課後等デイサービスの区分が導入され、様々制度が変わってきた面もある。</p>	<p>主：制度(市域)</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
80 (H28)	<p>69歳男性・脊椎損傷・身障1級。同居家族が発達障がいの息子と、身体疾患のある妻のみ。他、子供がかわるがわる訪問して介護をしている。区分6で身体介護70時間、家事援助35時間の支給決定を受けている。月～土までの起床介助と週3回の入浴介助（2名体制）で受け入れ可能な事業所がなく、少しでも受けられるところを受けてもらい続けた結果、5事業所を組み合わせて利用していた。ヘルパー事業所の人員不足で撤退されるようなことがたびたびおこり、自分で調整していくことが難しくなった。二度とこのような思いはしたくない、死活問題である。不安なので、一事業所でなく、複数事業所を利用してまわしていきたいと希望。計画相談支援のことを知って、コーディネーター役をしてもらいたいと思ったと相談を受ける。 【相談】</p>	<p>【課題】 介護保険対象者の上乗せ要件 65歳以上の障害福祉サービスをご利用される方の計画相談支援について</p> <p>【考えられる解決策】 65歳以上の障害福祉サービスをご利用される方の計画相談支援について、介護保険サービスの利用が優先になると知っておきながら相談室が積極的に介入することで、介護保険サービスを利用しないことを容認してしまうことにならないか、懸念がある。一方、コーディネーター役は必要と判断できるケースであり、同様なケース（ex:重度訪問介護利用者で65歳以上となる方など）についての計画相談支援利用について、取り扱いをどうするのか札幌市としての見解を教えてください</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 ・相談以外とも役割分担が必要。 ・札幌市の支給審査基準に関係する課題。 ・『さっぽろ障がい者プラン』の平成30年度からの改定に向けて、『年 間活動報告』で重点項目を示す。 ・相談支援部会では、地域支援員が地域診断を行う予定なので、報告した い。 ⇒平成31年4月現在のところ、相談支援部会地域支援員会議にて、統一した 地域診断が行われたという経過はない。</p>	<p>【参考】 ・障がい者施策によるホーム ヘルプサービス (居宅介護・ 重度訪問介護) の上乗せにつ いて (改正) 【札幌第5946号 ／平成29年3月31日】により 対象者要件緩和。</p>	<p>主：制度 (市域) 副：介護保 険への移行</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
81 (H28)	6歳の女児。8歳の姉、3歳の弟(発達障がい)、1歳半(発達障がい疑い)の弟と4人兄妹。幼稚園、児童発達支援、ヘルパー、短期入所を利用して生活をしているが、母親一人で4人の子供を相手にするのは大変で、毎週末本児を短期入所に預けたいと思ったが、月7日以上(支給決定要件)に該当しなかったケース。【相談】	【課題】 短期入所の支給決定基準について 【考えられる解決策】 現行の札幌市の基準では、原則7日/月の支給決定。これ以上増やす際の要件として、ア. 介護者の長期不在、イ. 同居者からの虐待、ウ. 利用者の心身の状況が不安定、エ. 施設入所待機の4要件しかない。 31日/月の支給決定を受けようとする場合はこれらの厳しい条件があっても良いと思うが、そこまで必要なく、月10日、14日などの支給決定を受けたい場合には別な要件を整備した方が良いと思われる。 障発第0330014号「介護給付費等の支給決定について」では、現在はこれ以前に国から示されていた原則7日/月という縛りはなく、自治体で柔軟に状況を見極めて支給決定するように示されている。 札幌市もいつまでも古い枠組みにとらわれず、柔軟な支給決定ができるような支給決定基準を作成してほしい。
59 (H26)	今まではサービスに頼らないでハード面の整備を行っていたが自立支援法になりマンパワーの充実に支援が傾きつつある。本人としてはマンパワーよりも補装具や日常生活用具の充実の方が優先順位が高い、現状としては重度訪問介護の時間数は余裕があるが補装具・日常生活用具は上限以上の利用をしている。(相談27)	重度訪問介護利用者等の補装具・日常生活用具について

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 ・札幌市の支給審査基準に関する課題。(80の見解と同じ) ・『さっぽろ障がい者プラン』の平成30年度からの改定に向けて、『年間活動報告』で重点項目を示す。(80の見解と同じ)</p>	<p>・支給審査基準に関する課題はたびたび提出されている。課題については、改めて障がい福祉課内で伝達・共有済み。</p>	<p>主：制度 (市域)</p>
<p>【課題整理済】(カテゴリ変更による) ・制度確認の結果、用具の制度改革で対応が必要になる。PA制度は現金給付目的ではないので、対象にならない。</p>	<p>【平成31年3月20日運営会議】 「制度的な課題なので、協議会で取り上げない」ということもできない。専門部会連絡会でそのあたりを整理していくことを確認。</p>	<p>主：制度 (国域)</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
65 (H26)	<p>日中活動サービスを、生活介護や就労継続支援B型など複数のサービスを利用する場合、各月日数-8日(実質23日/1ヵ月)では、頻りに契約日数を変更しなくてはならず、申請者・保健福祉課双方の負担になっている。</p> <p>日中活動サービスの日数を23日/月の枠の中で頻りに振り分ける必要があり、外出イベントなどに参加するため、急きよ予定変更する場合もあり、月に2度3度変更し直さなければならないときもある。(東区)</p>	<p>日中活動サービスについて、複数のサービスを利用する場合、支給量調整に係る事務の簡素化を検討する。</p> <p>サービス利用計画が提出されていれば、その都度の支給量調整を要しないようにできないか。</p>
102 (H30)	<p>一人暮らしをしている知的障害のある方が区役所から様々な通知書が送られて来ても、漢字等にルビが付いていなく何について書かれているのか分からなくて、とても困っている。【東区】</p>	<p>ルビが付くと読める知的障害のある方もいるが、ルビがあると反って読みづらくなる発達障害や視覚障害のある方もいるので、多くの方が読める通知の方法を検討する必要がある。</p> <p>行政からの知的障害のある方への通知書等(特に福祉に関するもの)には全てルビを付けるようにする。</p> <p>タイトルだけでも、ひらがなで表示したり、問い合わせ電話がしやすいよう電話番号を目立つようにしたり、大切なお知らせだとわかる色つき封筒で送付したり、工夫する。</p> <p>全国手をつなぐ育成会連合会 本人活動支援委員会が作成した「わかりやすい情報提供のガイドライン」</p> <p>大阪手をつなぐ育成会「わかりやすい情報提供に関するガイドライン」を活用し通知の方法を検討する。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理 プロジェクトチーム)の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理済】 国の協議会的なものに提案をしたい。</p>	<p>【平成31年3月20日運営会議】 「制度的な課題なので、協議 会で取り上げない」というこ ともできない。専門部会連絡 会でそのあたりを整理してい くことを確認。</p>	<p>主：制度 (国域)</p>
<p>【課題整理済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて各区で個別に対応してくれていることは確認した。。 ・一概にルビがあればということではなく、本人にわかりやすい表現とい うのは大切になってくる。 ・例えば、「この書類は重要なのでわからなければ誰かに相談してくださ い」と表記をする等の工夫は出来ないかについては、今後の検討になる が、行政の意識としても「わかりやすさ」を意識するような状況になって きている。 ・「わかりやすい情報提供ガイドライン」を市役所(障がい福祉課)内で 回覧し意識を高める。各区保健福祉課福祉支援係には、東区地域部会から の地域課題フィードバックのため、運営会議議事録 課題整理シート、情 報提供ガイドラインはその参考資料として送付する ・視覚障がいの方への通知については、各区で個別に対応しているという 回答。第三者に伝えていくシステムについてという意見が出ていた(課題 No. 101) ・課題カテゴリとして、新たに「情報保障」というものを作成。この課題 はそちらに分類することにする。 		<p>主：情報保 障</p>

No. ねんど (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
れい 例	だれ なに こま 誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	か だい 〇〇という課題がある 〇〇が必要
103 (H30)	ざいたく じかんさんそりょうほう おこな しょう じ しんさい ともな 在宅で、24時間酸素療法を行っている障がい児が、震災に伴 う停電で電源が確保できず、かかりつけのクリニックに相談し たが、大きな病院への入院手配や紹介はしてもらえず、家族が 直接電話するよういわれ困った。【東区】	じかんでんげん ひつよう い け あ ざいたく おこな しょう 24時間電源が必要な医ケアを在宅で行っている障 がい児者が、災害による停電時に、電源確保などの入 院が必要になった場合のしくみのあり方を検討する必 要がある。

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理中】 ・運営会議にて、自立支援協議会全体で北海道胆振東部地震発生時の状況まとめと今後についての検討を継続していくことを決定。 ・各地域の地震の対応についてまとめていく段階で、同様の課題を抱えていると確認されるのではないかと推察できるため、全部出そろった段階で、東区の課題をどのように扱っていくか整理していく。 ・イメージを共有して、協議会全体としてどのようにまとめていくか、どのように公表するか検討を進める。</p>	<p>・第32回全体会で地域部会、専門部会から報告する。 →令和元年5月第32回全体会にて「防災に関するまとめ」を共有 http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/kyougikai/documents/99_nenkankatudouhouk-okusyo_bousai.pdf ・地域部会連絡会では、「防災のまとめ」の周知を行っていくことと地域部会で防災に関する活動を継続的に行い、情報共有していくことを決定 (令和元年8月21日地域部会連絡会) 【参考】 札幌市では、令和元年10月から、在宅で人工呼吸器や酸素濃縮器などの電気式の医療機器を使用する呼吸器機能障害のある方や難病患者の方などに対し、非常用電源装置等の購入に係る費用を助成する「札幌市障がい者等災害対策用品購入費助成事業」を実施することとなった。 http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/guide/documents/saigai_youkou.pdf</p>	<p>主：災害</p>

No. ねんど (年度)	事例、問題提起、困りごと じれい もんだいていき こま	課題 かだい
れい 例	だれ なに こま 誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例 じれい	〇〇という課題がある かだい 〇〇が必要 ひつよう
104 (H30)	じへいしょう こども おや たどう しょう とくせい ひなんじょ ひな 自閉症の子供の親が、多動などの障がい特性から避難所に避 ん ざいたく す ば にっく たいおう しょ 難できなくて在宅で過ごすしかなく、パニックなどの対応や食 くりょう みず かくほ こま ひがしく 糧・水の確保が困った。【東区】	たどう しょう とくせい いっぱんひなんじょ ひなん 多動など障がい特性のため、一般避難所に避難でき ない障がい児者の避難所の指定について検討する必要 ひつよう がある。

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	
<p>【課題整理中】 No. 103の見解と同様</p>	<p>【参考】 ・「札幌市災害時の要配慮者 二次避難所 (福祉避難所) 設 置要綱」 ・「要配慮者二次避難所 (福 祉避難所) 設置・運営ガイド ライン (概要版)」 (令和元 年9月作成) https://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/youhairyosyan/jihinanjiyo/documents/gaiyogu-gaidorainn.pdf ・</p>	<p>主：災害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
<p>例</p>	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
<p>105 (H30)</p>	<p>精神や知的の障がい児者は、災害発生後数日から数週間後に心身に変調が現れたが、災害時の心のケア専門の相談窓口があることを知らなかった。【東区】</p>	<p>災害時に心のケア専門の相談を受ける窓口の周知を徹底する必要がある。 *生活支援ガイド 1. よくある質問 (Q&A) http://www.city.sapporo.jp/kinkyu/seikatsushien/201809/index.html#QA</p>
<p>106 (H30)</p>	<p>児童デイを利用する親が、事業所からの安否確認で訪問を受け、親子ともに安心できたという事例。 精神や知的の障がい児者は、震災発生直後の訪問等の対応で、ショックがかなり抑えられたという事例。 【東区】</p>	<p>福祉サービス提供事業者が軸になった災害発生時安否確認のしくみを検討する必要がある。 例) 事業所連合チームが地区割りで安否確認する。 例) 障害者手帳・受給者証更新時に、近所の事業所の場所・連絡先をお知らせし、何かあれば頼るよう案内する。</p>
<p>107 (H30)</p>	<p>本人や子供の障がいにより、避難所に避難できず在宅で過ごし、水汲みや食糧確保に出かけても長時間並ぶことができず、入手できなくて困った。【東区】</p>	<p>障がい児者本人や家族が、優先的に水や食糧・ガソリンを確保できるような仕組みを検討する必要がある。</p>

<small>うんえいかいぎ きゆう</small> 運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見 <small>かい</small> 解	<small>けっか</small> 結果	カテゴリ
<small>だれ</small> 誰が <small>なに</small> 何を <small>いつ</small> いつ <small>どのように</small> どのように	<small>うんえいかいぎ きゆう</small> <small>かだいせいり</small> 運営会議 (旧まちの課題整理 <small>けんかい</small> プロジェクトチーム) の見解 <small>う</small> を受けた結果、〇〇部会によ <small>けっか きようぎかい</small> る結果や協議会での議論の結 <small>か</small> 果などを記載し、全体で共有 <small>きさい ぜんたい きょうゆう</small> する。	
<small>かだいせいりちゆう</small> 【課題整理中】 <small>けんかい どうよう</small> No. 103の見解と同様		<small>しゅ さいがい</small> 主：災害
<small>かだいせいりちゆう</small> 【課題整理中】 <small>けんかい どうよう</small> No. 103の見解と同様		<small>しゅ さいがい</small> 主：災害
<small>かだいせいりちゆう</small> 【課題整理中】 <small>けんかい どうよう</small> No. 103の見解と同様		<small>しゅ さいがい</small> 主：災害

No. <small>ねんど</small> (年度)	事例、問題提起、困りごと <small>じれい もんだいていき こま</small>	課題 <small>かだい</small>
例	<p>誰が何を困っているのか？ <small>だれ なに こま</small> ○○が○○ ○○という事例 <small>じれい</small></p>	<p>○○という課題がある <small>かだい</small> ○○が必要 <small>ひつよう</small></p>
108 (R1)	<p>サポートファイルさっぽろについて、保護者の物として、扱う <small>さぽーとふぁいる ほごしゃ もの あつか</small> と作成されないことがある。【南区】 <small>さくせい みなみく</small></p>	<p>保護者が作成しない場合、情報が途切れてしまう。 <small>ほごしゃ さくせい ばあい じょうほう とぎ</small> 作成についてサポートする期間が必要ではない <small>さくせい きかん ひつよう</small> か？</p>
109 (R1)	<p>中途障がいの方、高齢の方の情報伝達のツールがない。 <small>ちゅうしょうがいかた こうれいかた じょうほうでんたつ つーる</small> 【南区】 <small>みなみく</small></p>	<p>サポートファイルさっぽろを使うことはできないか。 <small>さぽーとふぁいる つか</small></p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理中】 (2019年7月16日運営会議)</p> <p>・義務教育のお子さん(特別支援学校や学級)については、個別の教育支援計画(様式はサポートファイルさっぽろ)の作成が義務化になった。学齢期になれば、サポートファイルさっぽろの様式が、学校で個別の教育支援計画作成のツールとして活用される。学齢期以前は保護者については、作成有無によって違いが出てくる。会議自体が発達障がいに特化した会議となっているため、障がいの有無に関わらずすべてのお子さんが作成するとなると、担当部署間での様々な調整が出てくること予想される。行政からは、障がいの有無に関わらず活用できるとして市内の全小中学校へは周知案内をしている。</p> <p>・もともと子ども分野で話題が出ていたものだったので、課題検討については子ども部会で引き続き検討させてもらいたい。今年度中には何らかの結論を出せるようにする。</p>		
<p>【課題整理中】 (2019年7月16日運営会議)</p> <p>・就労事業所で利用者を受入れる場合、障がいに関する情報以外のもの(財産、権利擁護)についてはわからないことが多い。利用者に説明し親亡き後のファイルについて記載をするように工夫している事業所もある。全体的に統一した書式にするのは難しいが、相談支援事業所やサービス提供事業所等できるところから行われてきている。すぐに整えるのは難しいが、できる範囲で行うようにしていくしかない。</p> <p>・南区地域部会でも引き続き、できることはないか検討を続けていく。</p> <p>・各事業所や他地域の取組みの情報共有から何かわかるかもしれないので、地域部会連絡会でも情報交換を試みる。</p>	<p>●令和元年8月21日地域部会連絡会</p> <p>・課題について共有し、各区で取組みがある場合は、都度情報共有をしていくことで合意。</p>	